

高等学校 1～3年 特別活動（LHR） 学習指導案

「ネット上での発信者の責任やよりよいコミュニケーションについて考える」

日 時：平成 年 月 日（ ）

場 所：

授業者： 教諭 青木 伸枝

1 主題名

「ネット上でのコミュニケーションの特徴と適切な危険回避について考える」

2 主題について

(1) ねらいについて

情報社会を主体的・安全に生き抜いていく力を身につけさせることを目標として、インターネット社会の中で、情報通信ネットワークを利用して情報のやり取りをする際に身につけておくべき危険予測・回避能力とネチケットについて考えさせる。

ネットワーク利用の際には、ネットワークの特性からさまざまな危険と隣り合わせであることに気付かせ、ネットワークを利用する際に気を付ける点や適切な対処法について自らの力で導き出させたい。また、具体的ケースについて「何が問題と思われるか」「どのような危険が考えられるか」「どのように対処するか」を考えさせ、知識だけでなく実際にそのような場面に置かれた際に適切に行動できる能力と態度を身につけさせ、さらに、グループでの話し合いや発表の活動を通して情報を効果的に表現し、相手に伝達するコミュニケーション能力を向上させるとともに、情報を受ける側の望ましい態度も身につけさせたい。

(2) 生徒の実態について

本校ではパソコンを持っている家庭が多くなり、各家庭のインターネット普及率も高くなっている。また、ほとんどの生徒が携帯電話を所持している現在、ネットワークといつでもどこでもつながることができる状況で生徒たちは生活している。携帯電話で使う機能のトップとしてほとんどの生徒が「メール」と答えており、メールのような特定の相手とのやり取り以外にも、ブログやプロフを開設して不特定多数と情報のやり取りをしている生徒も増加している。

ネットワークの利用は便利なが多いが、使い方を誤ると自分や家族・友人を危険な状況に巻き込んでしまうため、ネットワークの特性や情報社会のルール・マナーについて正しく理解するとともに、危険な状況に冷静に対応し、より適切な対処法を考えて主体的に行動していく能力が必要となる。

そこで、情報モラルLHRを通して、ネットワークの「光と影」について正しく理解させ、ネットワークを正しいマナーと考え方で使用し、よりよいコミュニケーションづくりができる生徒を育てていく必要がある。

(3) 資料について

- 【導入・展開】 ネット社会の歩き方 <http://www.cec.or.jp/net-walk/>
警視庁 情報セキュリティ広場 <http://www.keishicho.metro.tokyo.jp/haiteku/>
- 【参考資料】 ①やってみよう情報モラル教育 <http://kayoo.info/moral-guidebook-2007/>
②熊本県教育委員会 情報モラル教育 <http://kyouiku.higo.ed.jp/page2012/>
③情報モラル指導セミナー「5分で分かる情報モラル」
http://sweb.nctd.go.jp/5min_moral/index.html

(4) 指導にあたって

インターネット社会でのコミュニケーションの問題点やネットワークで行ってはならない行為について紹介し、冷静な判断と適切な対処法を選択する能力が必要であることを確認し、本時の導入とする。

展開では、インターネット社会で遭遇することが予想されるいくつかの事例について①問題点はなにか、②どのように対応するか、をKJ法を用いてグループで話し合い、正しい情報の収集や適切な対処法・解決策を導き出す。

まとめで、インターネット社会のよりよいコミュニケーションの在り方について確認し、ネットワーク利用上の危険に適切に対処する能力と態度の向上を目指す。

「ネットワーク利用のルールやマナーを守ること」「相手の気持ちを思いやること」は、ネットワークを利用したコミュニケーションに限ったことではなく、実社会で生きていくために欠くことができないスキルであり、「ネットワークの特性を理解する」ことがさまざまな場面での適切な判断や行動につながっていくことも期待できる。

担任が「ネチケット」や「ネットワークに潜む危険の回避」についてLHRで指導することにより、情報モラルが教科「情報」の学習の枠を超えた社会の常識であることを強く意識させたい。

(5) 情報モラル教育の視点から

- ア 本時は、「モデルカリキュラム」の目標「1. 情報社会の倫理」、項目「a 5-1：情報社会において、責任ある態度をとり、義務を果たす」との関連を重視して、情報を発信する人の責任や守るべきルールを考え話し合う活動から、相手の立場に立つ想像力・コミュニケーション能力・人間関係を調整する能力の育成を目指す。
- イ 危険回避能力を育成するために、ネットワークの特性と利用上のマナーやモラル、ネットワークに潜む危険について正しく理解し、新たな判断場面でも適切に対応できる能力の育成を目指し、一方的な講義ではなく自ら考える学習活動を取り入れるよう留意する。

(6) 人権教育の視点から

- ア 自分の考えを、自信を持って発表できるような雰囲気づくりに努める。
- イ 他者の意見も尊重しながら、ともによりよい考えを導き出そうとする態度を育てる。

3 本時の学習 (1 / 1時間)

(1) 目標

たがいに気持ち良くネットワークを利用するために身につけておく必要がある情報モラルについて正しく理解するとともに、ネットワーク社会に潜むさまざまな危険に気づきどのように対応するか考え、情報社会に適切に参加することができる力を身につけさせる。

(2) 展開

過程	時間	学習活動	○主な発問と生徒の反応	教師の指導と評価	備考
導入	10	①ネットワーク利用上の注意点について説明を聞く。 事例1～4について解答する。【一斉】	T:「ネット・ケータイに関する問題について考えてみよう」…信ぴょう性・コミュニケーション・有害情報の具体例 S:ワークシートに記入	●ネット利用は常に危険と隣り合わせであるため正しい知識と判断力が必要であることを説明する。 【関心・意欲・態度】	ワークシート
	5	②本時の学習内容と目標を理解する。 グループ分けの指示を聞く。【一斉】	T:「班に分かれて、それぞれのケースについて話し合い、対処法を考えよう」 S:班を作り席移動する	●ネット上に潜む危険を察知し、どう対処すべきかを考えることを伝える。	
展開	30	③グループに分かれて資料に目を通し各事例について考える。 ・予想される危険 ・自分がとる行動 ・適切と思う対処 【グループ】	T:「迷惑メール」「プロフ」「出会い系」「無料ゲーム」等について、予測される危険とその対処法をワークシートに記入しよう S:付箋に記入して場に出し合い、グループで確認	●相手の意見について「正しい・間違い」を判断するのが目的ではないことを伝える。 ●批判させない。 【技能・表現】	ワークシート 付箋
		情報モラルにかかわる判断場面を話し合う。			
終末	5	④本時の学習内容を整理する。	T:ワークシートにまとめと感想を記入しよう S:まとめと感想を記入	●危険が予測される場面で適切に行動する必要があることを理解したか。 評価 具体的行動目標が設定できたか。	ワークシート ※回収
		⑤インターネット社会のよりよいコミュニケーションづくりについて考える。		●ネット上のコミュニケーションはいつも以上に相手を思いやる大切であることを強調する。	